

平成 28 年全国一級河川の水質現況の公表について

～今年も概ね 9 割の地点で環境基準を達成～

国土交通省では、昭和 33 年から全国の一級河川（直轄管理区間）で水質調査を実施しています。この度、平成 28 年の水質調査結果を取りまとめましたのでお知らせします。

BOD^(*1) 又は COD^(*2) の環境基準を満足した調査地点の割合は 91% となりました。

「水質が最も良好な河川^(*3)」は、尻別川、後志利別川、鷓川、沙流川、荒川（阿武隈川水系）、玉川、安倍川、櫛田川、宮川、北川、小鴨川、佐波川、仁淀川、巖木川、球磨川、川辺川、小丸川及び五ヶ瀬川の全 18 河川でした。このうち、玉川、櫛田川、佐波川については、初めて「水質が最も良好な河川」となりました。

(*1) BOD(生物化学的酸素要求量)：河川の水質の汚濁状況を図る代表的な指標である。水中の汚れ（有機物）が微生物により分解されるときに消費される酸素量のこと、BOD の値が大きければ水が汚れていることを表す。

(*2) COD(化学的酸素要求量)：湖沼や海域の水質の汚濁状況を図る代表的な指標である。水中の有機物を酸化剤で酸化されるときに消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、COD の値が大きければ水が汚れていることを表す。

(*3) BOD の年間平均値が各調査地点の平均で 0.5mg/ℓ である河川

【概要】

○環境基準の満足状況【パンフレット 7 頁】

平成 28 年は、有機汚濁の代表的な指標である BOD 又は COD の環境基準を満足した調査地点の割合は、91%（901 地点/987 地点）であった。

このうち、河川では 97%（863 地点/887 地点）で 9 年連続 95%以上 となった。

○水質が最も良好な河川【パンフレット 4 頁】

「水質が最も良好な河川」は、尻別川、後志利別川、鷓川、沙流川、荒川（阿武隈川水系）、玉川、安倍川、櫛田川、宮川、北川、小鴨川、佐波川、仁淀川、巖木川、球磨川、川辺川、小丸川及び五ヶ瀬川の全 18 河川であった。

玉川、櫛田川、佐波川については、初めて水質が最も良好な河川 となった。

○水質改善状況【パンフレット 6 頁】

下水道の整備や、行政と流域住民が協働で行ってきた生活排水対策や環境学習の推進等の取り組み等により、中野橋（淀川水系山科川）、亀の子橋（鶴見川水系鶴見川）ではこの 10 年間で BOD 値が 5.0mg/ℓ 以上改善された。

※概要版・地方版については、下記を参照。

○平成 28 年全国一級河川の水質現況

http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyokankyou/suisitu/h28_suisitu.html

問い合わせ先

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

企画専門官 榊井 正将（内線 35443）

係 長 青地 絢美（内線 35482）

TEL 03-5253-8111（代表）、03-5253-8447（直通）

FAX 03-5253-1603